

デジタルアンプによるバイアンプシステム(2) —バイアンプシステム (その1) —

1. 始めに

前報(1)では FAL C90EXW のデジタルアンプによるバイアンプシステムの準備として、バイワイアリングでの試聴を実施しました。本報より 3 機種 of デジタルアンプから 2 機種を選んで FAL C90EXW のバイアンプ駆動を行っていきます。

2. バイアンプの試聴方法

FAL C90EXW のユニット構成は次のようになっています。



さらにハイルドライバーユニットには村田製作所のセラミックスーパーツイーター ES103A をパラレルに接続しています。



駆動するアンプの選択は、3 機種から 2 機種を平面スピーカーユニットとハイルドライバーユニットにあてがいますので、6 通りの選択が可能です。前報(1)における音色や駆動の余裕を考慮し、音質上のメリットのあった LXA-OT3 を含む 3 通りを選択しまし

た。今回は、駆動するアンプとしては前報(1)で使用した次の2機種を選択しました。

①LXA-OT1

池田工業ケース入り

オペアンプを Texas Instruments の NE5532AP に交換

ハイルドライバーユニットを駆動

②LXA-OT3

共立電子ケース入りモノとして2台使用

オペアンプを Texas Instruments の NE5532AP に交換

平面スピーカーユニットを駆動

バイアンプにするためには、アナログ信号を2分割する必要がありますが、しなの音蔵のプリアンプから取らずに、プリアンプから入力しているP&GのフェーダーにRCA2分割ジャックをセットして信号を分割し2台のアンプにリベラメンテケーブルで入力しました。



3. デジタルアンプによるバイアンプ駆動の試聴結果

RCA信号を分割したためか、ハイルドライバーを①LXA-OT1で駆動したためか、前報(1)の②LXA-OT3共立電子ケース入りモノとして2台使用のバイワイヤリング駆動より鮮度が落ちました。

4. まとめ

ハイルドライバーをLXA-OT1池田工業ケース入りで駆動するバイアンプを実施しましたが、LXA-OT3共立電子ケース入りモノとして2台使用のバイワイヤリング駆動に及びませんでした。

以上